人権・同和教育保護者だより　第49号
小松高等学校ＰＴＡ人権教育部
令和４年２月発行

# きらり

Citrus Ribbon PROJECT

## 第２回人権・同和教育ホームルーム活動

１年　自分の周りに目を向けよう①

１年　自分の周りに目を向けよう②

２年　水平の旗ひるがえる

３年　結婚差別の解消に向けて

### ○“最後の電話”から生きなおす（目撃！にっぽん）を鑑賞して

コロナ禍の中で、仕事が少なくなった人や学校に行けなくて未来が見えなくなっている人が増えています。人とのつながりがなくなるということは、どれだけ不安でしんどいことか分かりません。私も多かれ少なかれ悩みがあり、家族や友人に相談して少しずつ解決していますが、世の中には悩み苦しんで自ら命を絶とうとする人もいます。

和歌山県の三段壁という観光名所には、「いのちの電話」という電話ボックスが置いてあります。悩める人が電話をかけるとＮＰＯ法人につながり、話を聞いてもらって自死への思いをとどめているそうです。人は一人では生きていけません。みんなが助け合いつながって、コロナ禍の今の情勢を安心して乗り越えていける社会であって欲しいと思います。

## ○地方で暮らすLGBTsのわたし（目撃！にっぽん）を鑑賞して

LGBTsのsは、LGBT以外の多様な性を示すもので、性別での区別に違和感を覚え恋愛感情がない人たちを意味しているそうです。女性・男性と区別する東京での生活の中、本当の自分を隠して生きることに限界を感じて島根県の小さな集落に移り住み、自分らしさと偏見の狭間で生きている藤彌葵実さん（29歳）の話でした。

島根県の邑南町日和地区に移り住んだ藤彌さんは、優しい人たちに囲まれ一見楽しそうに暮らしていましたが、本当の自分を隠しながらの生活でした。月に一度ある集落の会合で、恋愛感情がないことや結婚願望がないことを地域の人たちに打ち明けました。集まっている人たちのほとんどは、結婚して子どもを産むことで幸せになると考え、結婚願望がないことに、「理解できない」「おかしい」「異常な感じがする」と言い放ってしまいました。藤彌さんにとってはショッキングな言葉ではありますが、セクシャルマイノリティ（性的少数者）について考える種がこの地域に植えられたように私は感じました。

今日では、LGBTsについて考える機会が多くあり、迷いながらもある程度の所に落ち着いていると思います。肝心なのは相手を思いやる心。誰かが苦しんでいるならその人の考え方を聞き、どうすればみんなが健やかに生きていけるかを自問自答しながら考え続ける。そうすることで、LGBTsの人たちが暮らしやすい社会の実現につながっていくと思います。日和地区の人たちが、思い悩んで良い答えを見い出してくれることを期待しています。

### ☆人権ポスター

愛媛県人権ポスター 入選

**人権標語**

・君は月、あなたの太陽、私なる
・咲かせよう 笑顔の花を 満開に
・救い出そう 笑顔の裏で 泣いている子
・「大丈夫」 言葉の影には SOS
・それぞれの 輝く個性 分かち合う
・大丈夫？ その一言で 大丈夫

## ☆編集後記☆

今年度も、昨年度と同様に新型コロナウィルス感染症の影響によって思うような活動ができませんでした。ただ、このような状況下においても先生方や役員皆様の御協力のおかげでＳＮＳをはじめとする様々な手段を用いて、人権・同和教育について学び考えることができたことに感謝しております。

人権・同和教育にとっては、対人（ひと）の問題について、顔をあわせ意見を交わすことが難しいという皮肉めいた現状です。それでも、悩み苦しんでいる人たちの想いに寄り添うとともに、ＰＴＡ活動を通して学んだことを生かしていけるようにしていきたいと思います。

最後になりましたが、「きらり」を通して学んだことが、皆様とその周りの人たちの幸せにつながることを願って編集後記とさせていただきます。御協力ありがとうございました。